

三重大学人文学部外部評価総評

三重県立伊勢高等学校 山川 晴一郎

今回、三重大学人文学部の外部評価委員会に参加させていただき、高等学校側の者として知らないことがたくさんあり、それを教えていただいただけでも勉強になったと思います。高等学校でもいろいろな形で外部の評価を受けています。1つは学校評議員による学校評価です。形態はほぼ今回の委員会とよく似ています。他に中学校や小学校の関係者からいろいろなご意見を頂いたり、アンケート調査も毎年続けています。いずれも本校へ生徒を進学させる上での注文であり、大変参考になります。また、保護者から意見を聞く機会も設けていますが、これが一番厳しいもので、それだけ保護者の思いも強いと感じています。すぐに実現できるものばかりではないのですが、PLAN・DO・SEEにつなげていきたいと考えています。

私の第一の視点は、高校生が大学進学を決める時の考え方です。

生徒が進学先を決めていく過程は、

- ① まず自分は何をやりたいか、何に向いているのかをさがす。職業をイメージする生徒も多いがそれほど具体的ではない場合が多い。
- ② 次にそれはどんな学部・学科へ行けばよいか考える。
- ③ そして自分をとりまく状況、たとえば経済状態や成績などを踏まえ、受験する大学を決める。

この順はいれかわることもあります。

高校ではキャリア教育の一貫で、将来なりたい職業人に話を聞きに行くことをしています。生徒の方に知識が少ないので、有効なキャリア教育になっているかどうか判断し難い面もありますが、視野が広がることはまちがいないと思います。

大学選択も本当にイメージができてくるのは、3年生になってからだと思います。大学からの情報はあふれています。その情報を確認するため、オープンスクールに参加することになります。

人文学部のいろいろな取組みを聞かせていただき、私の知らなかった分野や、生徒にとって魅力的な学習内容がカリキュラムにあることがよくわかりました。しかし、それが高校生に届いているかという点、難しいと思いましたし、いろいろな学習ができることが果たして生徒が大学を選択するときの魅力になっているのだろうかと考えます。目的意識の強い生徒ほど明確な教育内容に惹かれると思います。

私は海外の大学との交流に関心を持っていました。中国の中学・高校へ行ったとき、それはエリート校でしたが、英語で理科の授業をしたり、日本語の学習をしていることに驚かされました。欧米や日本の大学へ行くことがひとつのステータスになっていることを知りました。欧米の大学へ行っても、生徒は本当に世界中から集まっているように思いました。

三重大学へは中国などアジア諸国からたくさん留学していると聞いております。三重大学を卒業した中国人が日本の企業に就職し、活躍している例も身近に聞いています。これらの海外からの学生を教育に活用し、海外交流、留学もされていると聞きました。こういったことをもっと中心に据え、分かりやすく、魅力的な教育内容にしていきたいと思います。

学部名や学科名も教育内容がそのままわかるのがいいと思います。

言語だけでも広がりを持つと思うし、各国の文化や歴史の交流がうまくできれば、にぎやかな大学になると思います。語学がますます必要になってくるなかで、おもしろい教育ができればいいと思います。1年間は外国の大学へ留学することも保障されているようです。三重大人文学部は卒業までに必ず1年間海外の大学へ留学させるということは、魅力的だと思います。よろしく申し上げます。

入試方法は、生徒にとってあらたな負担になることもありますが、単なる学習能力以外の資質・能力の評価も忘れないでほしいと思います。もう一つの視点を何にするのかは、どういう教育システム、教育内容を展開していくかによると思います。一芸入試で思わぬところへ入学できた学生がいましたが、基礎的な学習ができていなかったのについていけなかった例もあります。高校での教育は本当に基礎的な学習です。それを十分に踏まえていただきたいと思います。

高大連携については、生徒のモチベーションを上げるのに大きな効果が有ります。本校も三重大大学の先生方にお世話になっており感謝しているところです。学問へのインセンティブを得ると言う点では、高校の教員が同じ事を言っていたとしても、生徒はぜんぜん違う捉え方をすると思います。小学校や中学校へ出前されるのも魅力があります。このことについては益々、充実をお願いしたいと思います。

繰り返になってしまいますが、本当に充実した教育を実施されていることをもっと高校生あるいは中学生の見えるところでアピールしていただきたいと思います。そして大学選択のときに、何が学べるか、分かりやすい、明解な広報をしていただければ、地元志向が強くなっている生徒が多いことから志望者が増えると思います。また、私どもの南勢地域、志摩地域では三重大大学の活動を知る機会も少ないと思います。是非我々の地域でももっと教養講座などの機会を持っていただけたらと思っています。僭越なことを言わせていただいたこととお許し下さい。ありがとうございました。

上記評価に対する学部としての見解

伊勢高等学校の山川先生には様々な点について問題点を指摘していただきましたが、特に学部の広報、学部及び国際化という点について学部としての見解を述べさせていただきます。法人化以後、オープンキャンパス、大学進学セミナー等を積極的に活用して広報活動に取り組んできました。今後は、人文学部の教育内容を分かり易くするための検討を行ないつつ、さらに広報活動を進めたいと考えております。2006年度には、三重県及び愛知県の高校を対象に、進路指導担当者訪問を実施することにしています。高校の進路指導の先生方に人文学部について十分に理解していただき、進路指導に役立てていただければと思います。また、

国際化に関してですが、若い時に国際感覚を養い、広い見識を身につけるといのは非常に大切なことです。学生の留学先となる海外の協定校のさらなる充実を目指すべく、国際交流委員会を中心に検討を続けております。